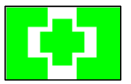
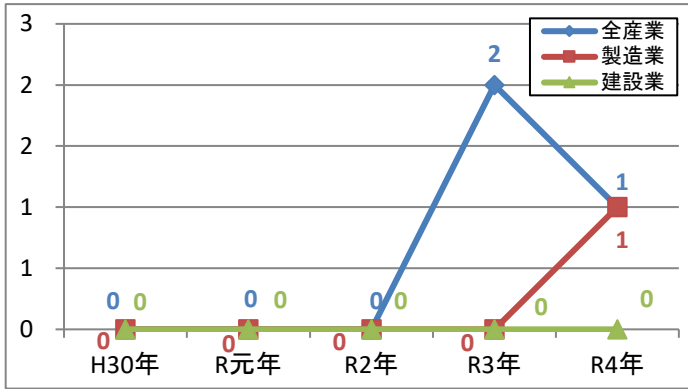


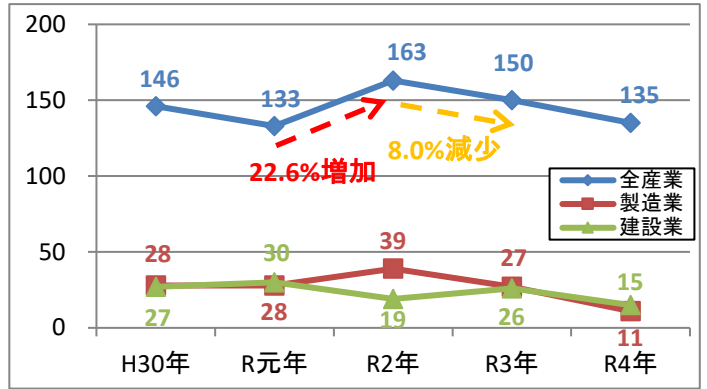
令和4年 労働災害発生状況（6月末現在）



淡路労働基準監督署



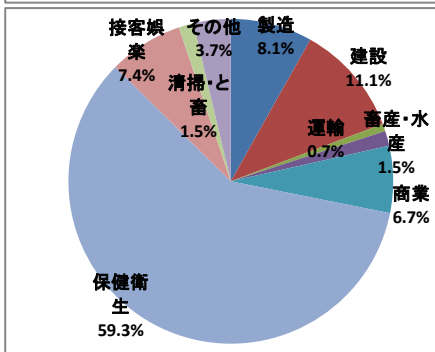
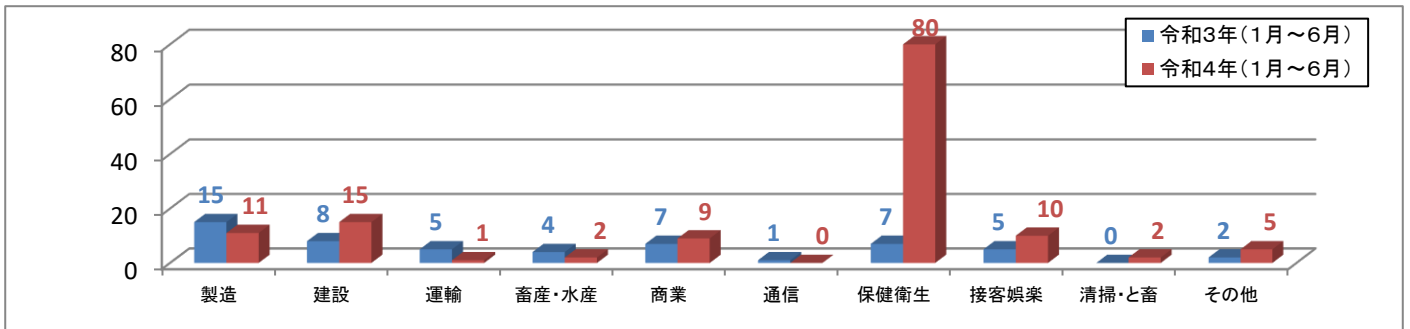
死亡者数の推移



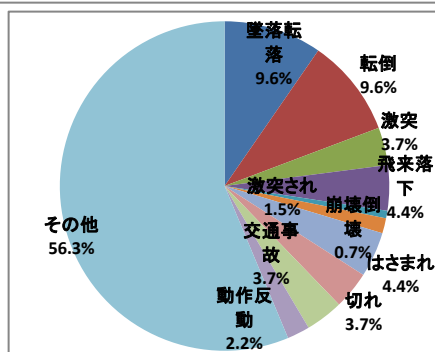
死傷者数の推移

死亡者数については、平成30年から令和2年までは0人で推移していたが、令和3年に2人（1人は新型コロナウイルス感染症による。）発生し、令和4年に1人発生している。また、休業4日以上死傷者数については、平成30年から130人以上の数で推移し高止まりの傾向にある。さらに、令和3年は150人と前年と比較すると8.0%の減少となっている。加えて、令和4年は135人と前年同期より150.0%の増加となっている。なお、令和4年は業務中に新型コロナウイルス感染症に罹患した者が76人おり全体の56.3%となっている。

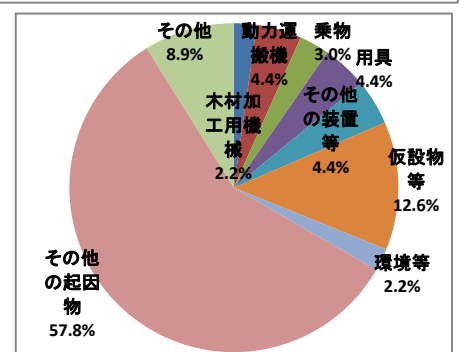
業種	令和4年(1月～6月)		令和3年(1月～6月)		前年比較	
	死傷者数(人)	構成率(%)	死傷者数(人)	構成率(%)	死傷者数(人)	増減率(%)
製造	11	8.1	15	27.8	-4	-26.7%
建設	15	11.1	8	14.8	7	87.5%
運輸	1	0.7	5	9.3	-4	-80.0%
畜産・水産	2	1.5	4	7.4	-2	-50.0%
商業	9	6.7	7	13.0	2	28.6%
通信	0	0.0	1	1.9	-1	-100.0%
保健衛生	80	59.3	7	13.0	73	1042.9%
接客娯楽	10	7.4	5	9.3	5	100.0%
清掃・と畜	2	1.5	0	0.0	2	-
その他	5	3.7	2	3.7	3	150.0%
全産業	135	100.0	54	100.0	81	150.0%



業種別割合



事故の型別



起因物別

業種別については、『保健衛生業』が最も多く80人(59.3%)、次いで『建設業』15人(11.1%)、『製造業』11人(8.1%)、『接客娯楽業』10人(7.4%)、『商業』9人(6.7%)となっている。前年同期と比べると、『建設業』、『商業』、『保健衛生業』、『接客娯楽業』、『清掃・と畜業』で増加している。

事故の型別については、『その他』災害が最も多く76人(56.3%)、次いで『墜落・転落』、『転倒』災害13人(9.6%)、『飛来・落下』、『はさまれ・巻き込まれ』災害6人(4.4%)となっている。

起因物別については、『その他の起因物』が最も多く78人(57.8%)、次いで『仮設物・建築物・構築物等』17人(12.6%)、『動力運搬機』、『用具』、『その他の装置等』6人(4.4%)となっている。

資料出所：労働者死傷病報告(様式第23号)による。